

■分析と今後の指導上の工夫 2学年

○良好なもの ●課題が見られるもの

宇都宮市平均と比較し、特徴的であると思われる項目を本校の課題ととらえて分析した。

○「いろいろな教科の学習は将来のために大切である」と肯定的にとらえている生徒の割合が市の平均と同じ程度か、上回っている教科が多い。生徒の興味・関心を生かし、学力向上につなげたい。

○「本やインターネットを利用して学習し、まとめることができる」と肯定している生徒の割合が市の平均を上回っている。技術・家庭科を中心として、各教科における活動の成果と思われる。今後もいろいろな場面で、コンピューターなどを利用した授業の指導に努めていきたい。

○「食事のマナーについて関心がある」と答えた生徒の肯定割合が84.4ポイントで市の平均を上回っている。給食委員会を中心とした啓発活動の成果と思われる。今後も技術・家庭科や給食担当を中心に食のマナーについての指導に努めていきたい。

○いろいろな人にあいさつができたり、話し合い活動に進んで参加し、自分の考えを広めたりできている生徒が多い。今後も、自分の考えを深めたり、広めたりできる授業等を通してコミュニケーション能力をつけさせたい。

●家庭学習の時間について、「1時間以上行っている」生徒の肯定割合が58.9ポイントで宇都宮市の平均を下回っている。適切な宿題の出し方について工夫するとともに、保護者会等を利用して家庭学習の充実に向けての理解と協力を得て、学校と家庭が一体となった望ましい家庭学習習慣の定着にむけて取り組んでいきたい。また、宿題などの期限を守って提出することや、期日を守ることの大切さも指導していきたい。

●「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している」についての肯定割合が58.5ポイントで市の平均を下回っている。誤答対策ノートを活用など、やり直したことを確認する機会を増やすなどして、知識の確実な定着を図りたい。